

第 73 回日本矯正歯科学会大会

臨床セミナー「私が考える治療戦略：上顎前突の 2 期治療」



講演タイトル

顔貌の改善と長期安定を目指す治療戦略

Treatment strategy for achieving an improvement of dentofacial appearance and long-term stability

いなげ矯正歯科医院

稲毛 滋自

講演抄録

思春期性成長のピークを過ぎた十代後半の患者、過大な overjet を有する Angle Class II 骨格性上顎前突の矯正歯科治療は種々の困難を伴う。思春期特有の心理学的な背景を考慮しつつ患者とのコミュニケーションを深め、患者の悩みを引出し患者が矯正歯科治療に期待することや治療後の顔貌や口元のイメージなどについて十分に聞き取ることが肝要である (patient-oriented approach)。患者の検査資料の解析結果から problem list を作成し、そのリストを基に治療目標と治療計画を立案する (problem-oriented approach)。しかる後に患者と保護者同伴のもとに面談し informed consent 得て治療を進めてゆくことを旨としている。

共通症例

共通症例の problem list は、①convex profile、②下顎骨の後方位を伴う skeletal Class II、③第一大臼歯咬合関係の full Class II、④過大な overjet、⑤叢生 (posterior crowding も含む)、⑥下顎両側第二大臼歯の半埋伏、⑦口腔習癖 (口呼吸、下唇を咬む癖、舌突出癖) である。過大な overjet を有する Angle Class II 骨格性上顎前突と診断した。治療目標は、①調和のとれた顔貌の獲得、②可及的な skeletal Class II の改善、③第一大臼歯咬合関係の Class I の確立、④適切な overjet の獲得、⑤叢生の解消、⑥口腔習癖の是正とした。治療計画は

7 4 | 4 7

8 5 | 5 8 を抜歯、上顎に加强固定として high pull headgear と high pull J-hook headgear を使用し上下顎マルチブラケット法にて動的治療を行い、保定装置として上下顎可撤式リテーナーを使用することとした。